

瘤取り 爺さん



昔、右の頬に大きな瘤のある

お爺さんがいました。

ある日のこと、

お爺さんが山で薪を取っていると、

急に空が暗くなりました。

「わあ、雨だ、雨だ。」

お爺さんは急いで

お堂の軒先に駆け込みました。

雨はなかなか止みません。

お爺さんはいつの間にか

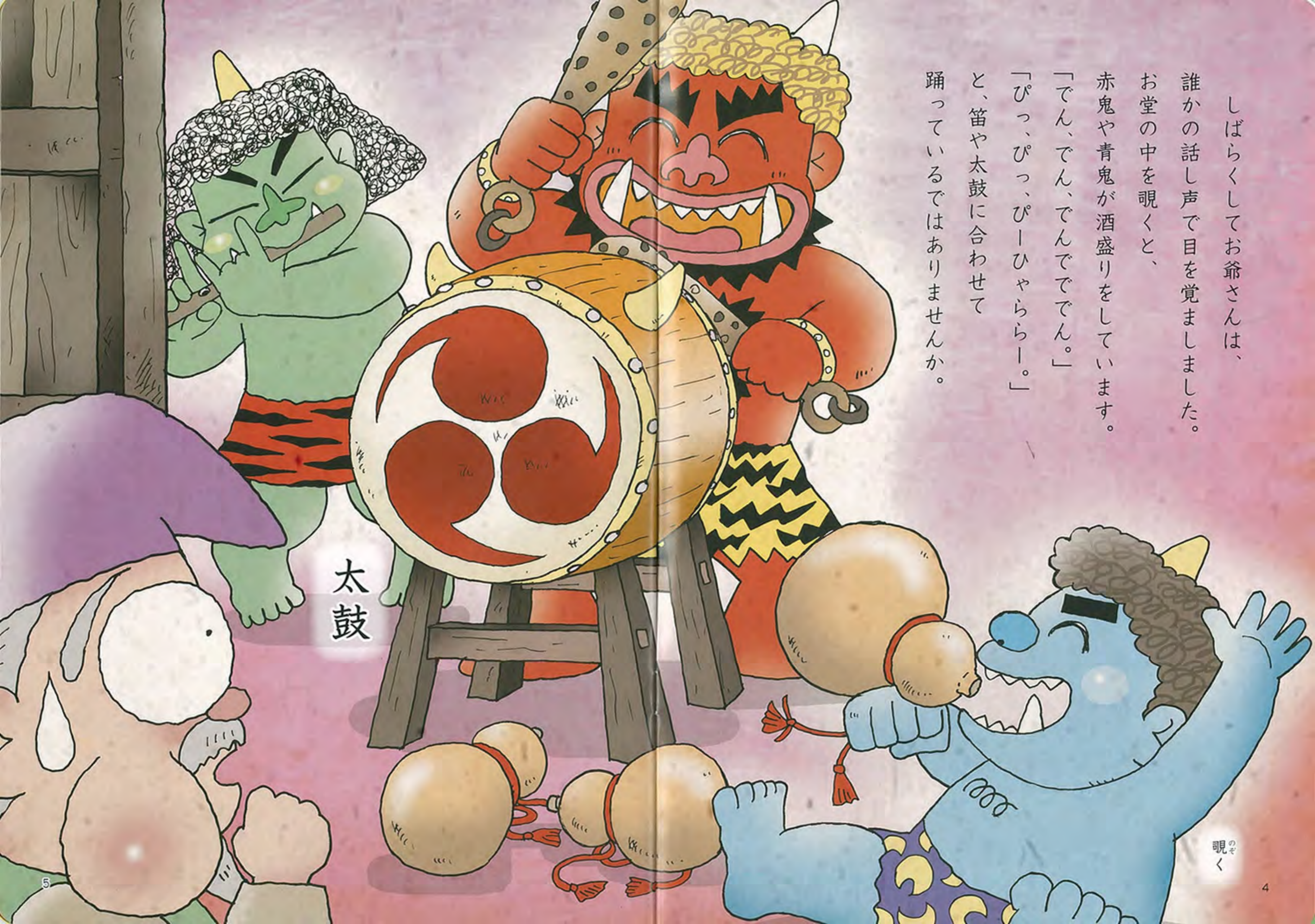
うとうと眠ってしまいました。

お堂



軒先のきさき

薪のき 瘤こぶ 頬ほ



しばらくしてお爺さんは、

誰かの話し声で目を覚ましました。

お堂の中を覗くと、

赤鬼や青鬼が酒盛りをしています。

「でん、でん、でんでででん。」

「ぴっ、ぴっ、ぴーひゃららー。」

と、笛や太鼓に合わせて

踊っているではありませんか。

太鼓

覗く